

|| 企業調査レポート ||

ソフト 99 コーポレーション

4464 東証 2 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 1 月 16 日 (火)

執筆：客員アナリスト

佐藤 譲

FISCO Ltd. Analyst **Yuzuru Sato**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

業績動向

2018 年 3 月期第 2 四半期は、期初会社計画を上回る好決算

● 2018 年 3 月期第 2 四半期累計業績の概要

ソフト 99 コーポレーション <4464> は、カーワックスや洗浄剤、補修材などのカー用品大手。子会社で展開するポーラスマテリアル事業は半導体製造用の精密洗浄材で高シェアを持つ。

2018 年 3 月期第 2 四半期の連結業績は売上高が前年同期比 5.5% 増の 11,666 百万円、営業利益が同 24.8% 増の 1,423 百万円、経常利益が同 21.2% 増の 1,493 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同 20.1% 増の 990 百万円となり期初会社計画を上回る好決算となった。主力のファインケミカル事業やポーラスマテリアル事業が揃って 2 ケタ増益と好調に推移したことが主因だ。

2018 年 3 月期第 2 四半期累計業績 (連結)

(単位：百万円)

	17/3 期 2Q 累計		会社計画	18/3 期 2Q 累計			
	実績	対売上比		実績	対売上比	前年同期比	計画比
売上高	11,057	-	11,300	11,666	-	5.5%	3.2%
売上総利益	4,068	36.8%	-	4,453	38.2%	9.5%	-
販管費	2,927	26.5%	-	3,029	26.0%	3.5%	-
営業利益	1,140	10.3%	1,150	1,423	12.2%	24.8%	23.8%
経常利益	1,231	11.1%	1,220	1,493	12.8%	21.2%	22.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	824	7.5%	810	990	8.5%	20.1%	22.3%

出所：決算短信よりフィスコ作成

ファインケミカル事業の売上高は前年同期比 6.3% 増の 5,719 百万円、営業利益は同 19.5% 増の 730 百万円となった。売上高は海外向けが同 39.0% 増の 806 百万円と大幅増収となったほか、業務用製品が同 8.2% 増の 742 百万円、一般用ガラスケア製品が同 4.6% 増の 1,756 百万円とそれぞれ伸長した。海外については欧州向けに丸缶ワックスが急伸したほか、台湾でも現地代理店と協働して小売店での売り場構築を進めるなど営業強化に取り組んだ効果で販売が伸びるなど、全ての地域で増収となった。また、新規市場としてインドでの販売もスタートした。また、業務用製品については、得意先である中古車ディーラー向けや自動車メーカーの OEM 向けがそれぞれ順調に拡大した。利益面では、増収効果に加えて採算の良い業務用製品が伸びたこと、海外向け粗利益率が改善したことなどが増益要因となった。

一方、ポーラスマテリアル事業の売上高は前年同期比 9.0% 増の 2,756 百万円、営業利益は同 32.2% 増の 472 百万円となった。半導体業界向け洗浄材が好調に推移したことが増収増益要因となった。半導体市場の拡大を背景に、国内においては半導体メーカーからの受注が旺盛だったほか、新規製造装置での導入も進んだ。また海外においても米国、韓国のメーカーを中心に好調に推移した。市場別の売上高では半導体向けを含む産業資材品が前年同期比 11.9% 増の 2,015 百万円、家庭用等の生活資材品が同 1.5% 増の 741 百万円となった。

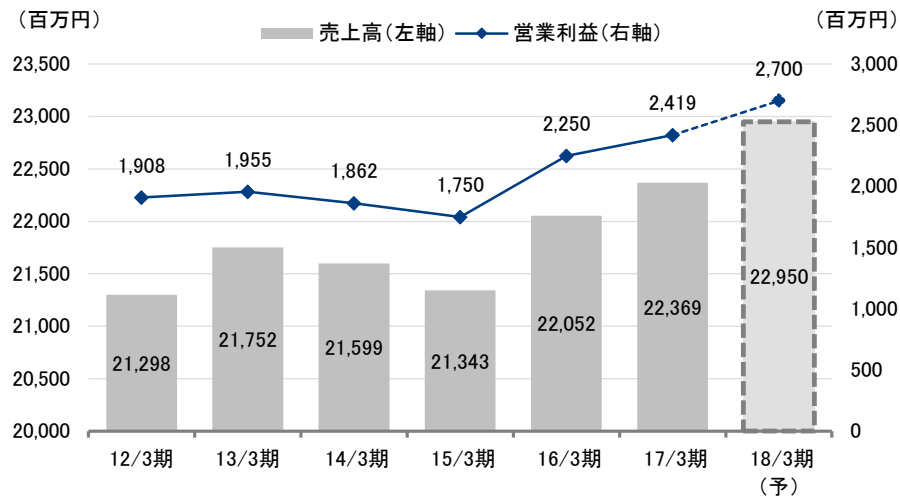
業績動向

そのほか、サービス事業や不動産関連事業についても不動産関連事業に含まれる温浴事業が減収となった以外は、全て増収となり、利益面でも増益となった。

Key Points

- ・ 2018 年 3 月期業績はなお保守的な印象
- ・ 中期経営計画では市場環境の変化に対応し、既存市場でのシェアを維持しつつ新市場開拓や新規事業の創出に注力する

業績推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 今後の見通し

ファインケミカル事業、ポラスマテリアル事業の好調で 2018 年 3 月期業績も過去最高益更新続く

● 2018 年 3 月期の業績見通し

2018 年 3 月期の通期業績は、売上高が前期比 2.6% 増の 22,950 百万円、営業利益が同 11.6% 増の 2,700 百万円と期初計画（売上高 22,600 百万円、営業利益 2,420 百万円）を上方修正した。ポラスマテリアル事業の好調を反映させた格好で、ファインケミカル事業については期初計画をほぼ据え置いている。ただ、ファインケミカル事業についても、業務用や海外市場向けが下期も順調に推移するほか、国内一般市場向けについてもドライプレコーダーのヒットによるカー用品店への客数回復もあって底堅く推移する見通しであることから、通期業績についても若干の上振れ余地があると弊社では見ている。

今後の見通し

2018 年 3 月期連結業績見通し

(単位：百万円)

	17/3 期		18/3 期			
	通期実績	対売上比	期初計画	修正計画	対売上比	前期比
売上高	22,369	-	22,600	22,950	-	2.6%
営業利益	2,419	10.8%	2,420	2,700	11.8%	11.6%
経常利益	2,597	11.6%	2,570	2,850	12.4%	9.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,790	8.0%	1,700	1,900	8.3%	6.1%
1 株当たり利益 (円)	82.57		78.39	87.58		
1 株当たり配当 (円)	21.0		22.0	22.0		

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 中期経営計画について

中期経営計画では市場環境の変化に対応し、既存市場でのシェアを維持しつつ新市場開拓や新規事業の創出に注力する

新中期経営計画（2018 年 3 月期～2020 年 3 月期）では、既存事業において収益水準の維持向上を図りながら、新市場の開拓並びに新規事業の創出に取り組んでいく 3 年間と位置付けている。2020 年 3 月期の経営数値目標としては、売上高で 25,000 百万円、営業利益で 2,700 百万円を掲げているが、営業利益に関しては 2 年前倒しで達成できる見通しだ。なお、M&A を実施した場合の目指す収益水準としては売上高で 30,000 百万円、営業利益で 3,200 百万円としている。

今回の中期経営計画では、自動車分野、産業分野、生活分野と 3 つの分野に分けて経営基本方針を策定している。2017 年 3 月期の連結売上高に占める構成比で見れば、自動車分野が 61%、産業分野が 16%、生活分野が 23% の比率となる。

自動車分野ではカーシェアリングの普及など市場環境が変化してきていることによって、一般消費者向けの需要は今後も厳しさが続くとの前提で、「新時代の自動車において安心・安全・快適を実現」していくことをテーマに、自動車美装の再定義による新製品・サービスの開発や、海外市場の開拓、TPMS（タイヤ空気圧監視システム）の乗用車向けへの展開、自動車钣金や運転講習等のノウハウを活用した新サービスの開発に注力していく。このうち、海外市場の開拓ではインドへの進出を開始するなど成果が出始めており、今後の展開が注目される。

ソフト99コーポレーション | 2018年1月16日(火)
4464 東証2部 | <http://www.soft99.co.jp/ir/>

中期経営計画について

産業分野については「新たな柱となる市場の開拓」をテーマに、ポーラスマテリアル事業のコア技術である機能性多孔質体※の用途開拓を進めていく。既に、家庭用の台所回り製品や自動車用製品としての売上が拡大しているほか、医療分野でもインフルエンザの検査用キット用に続いて、新たに吸液機器の止水弁部品としても採用され、売上を伸ばし始めている。そのほかにも、新規開発したプリンタ用インク吸液部品が大手プリンタメーカーに採用されるなど、着々と開発の成果が出始めている。また、ファインケミカル事業ではコーティング製品を屋外構築物や鉄道、航空機、船舶、清掃業界向けに拡販していくほか、表面改質技術（難接着素材への印刷・接着を可能とする技術）を使ったフレイムボンドを製造現場向けに拡販していく計画となっている。

※ PVA（ポリビニルアルコール）製のスポンジで体積の90%が気孔となり、一般のスポンジよりも抜群の吸収性能を持つのが特徴。半導体やハードディスク等の洗浄工程で使用される洗浄材では大手2社の一角を占める。

生活分野においては「ニッチ市場での存在感確立」をテーマに、メガネケア用品に続くケミカル新分野の開拓を進めていくほか、インターネット販売事業に注力していく。また、生活分野は同社の事業セグメントすべてにまたがっているため、グループリソースを共有化しながら経営効率の向上も目指していく方針だ。

中期経営計画数値目標

(単位：百万円)

	17/3 実績	18/3 期期初予	18/3 期修正予	20/3 期目標	年平均成長率 (17/3-20/3)	目指す姿※
売上高	22,369	22,600	22,950	25,000	3.8%	30,000
営業利益	2,419	2,420	2,700	2,700	3.7%	3,200
経常利益	2,597	2,570	2,850	2,850	3.1%	3,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,790	1,700	1,900	1,900	2.0%	2,200

ファインケミカル事業	17/3 実績	18/3 期期初予	20/3 期予	年平均成長率
売上高	10,806	11,000	12,500	5.0%
営業利益	1,305	1,320	1,530	5.4%
営業利益率	12.1%	12.0%	12.2%	
ポーラスマテリアル事業	17/3 実績	18/3 期期初予	20/3 期予	年平均成長率
売上高	5,178	5,200	5,600	2.6%
営業利益	698	700	740	2.0%
営業利益率	13.5%	13.5%	13.2%	
サービス・不動産関連事業	17/3 実績	18/3 期期初予	20/3 期予	年平均成長率
売上高	6,383	6,400	6,900	2.6%
営業利益	406	400	430	1.9%
営業利益率	6.4%	6.3%	6.2%	

※目指す姿は、M&A等により目指す収益増が実現した場合の参考値
出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ